

三三七六番

百足ももたらず 山田やまだの道みちを 波雲なみくもの 愛うつくし妻づまと 語かた

らはず 別わかれし来くれば 速川はやかはの 行ゆきも知らず

衣手ころもての かへりも知らず 馬うまじもの 立たちてつ

まづき せむすべの たづきを知らに もののふ

の 八十やその心こころを 天地あめつちに 思おもひ足たらはし 魂たまあ合あは

ば 君来きみきますやと 我わが嘆なげく 八尺やさかの嘆なげき 玉梓たまほこ

の 道来みちくる人ひとの 立たち留とまり 何なにかと問とはば 答こた

へ遣やる たづきを知らに さにつらふ 君きみが名ない言い

はば 色いろに出いでて 人ひと知しりぬべみ あしひきの

山やまより出いづる 月つきま待まつと 人ひとには言いひて 君きみ待まつ

我われを

反歌

三三七七番

眠いも寝ねずに 我あが思おもふ君きみは いづく辺へに 今こよひ夜たれ誰

とか 待まてど来きまさぬ